

南竜山と「おゆき (妙現尼)」のこと

1. 南竜山不動尊の歴史的経緯と開基（開創）者であった「おゆき (妙現尼)」

南竜山不動尊（本尊不動明王）

当山の開基は、釈妙現比丘尼。平清水村農夫善助の嫁オユキは、長く目を患い不動明王の信仰殊の外であった。或る夜、靈夢のなかに南竜山に不動明王が示現し、南竜山の滝で洗眼したところ、オユキの目が開眼した。オユキは益々不動明王を信仰し、明和六年（一七六九）お堂を建て尼となり妙現尼と称した。安永九年（一七八一）信者三日町、鈴木宇右エ門が拜殿と籠堂を建立し、益々崇敬を集めるに至った。

弘化四年（一八四七）六月二十八日柏山寺の弟子覚忍房良海が発頭人で、越後国菅谷不動尊を還し、南竜山に石像を奉納した。弘化四年八月二日村中於南竜山参道を掃除、平泉寺から石像を滝壺に持行し安置した。八月二十八日石像開眼供養を行った。（導師山王・承仕 覚忍房・施主 山崎源兵衛）

同年十月十五日開眼供養の施主、山形横町 山崎源兵衛が護摩堂を建立した。目の不動尊として参詣者が絶える事なく、広く信仰の場として明治末期まで続いた。

大正七年平清水部落の総意によって護摩堂が代金百円で売却、その利子を資金として例祭と参道の掃除にあてた。例祭と参道掃除は、町内会行事で今も継承されている。

平泉寺文書（山形市史資料第五七号）

○ 弘化四年（一八四七）六月二十八日、山形前柏山寺瓊海の弟子覚忍房良海発頭人二而、当南竜山江越後国菅谷不動尊ヲ還シ石像奉納、日鑑ニ委ク記ス

○ 同八月二日、村中於南竜山道掃除、石像当寺之庭ヨリ南竜江持行、明三日開眼供養可仕処、二十八日二日延

○ 同二十八日、石像開眼供養

導師山王

承仕 覚忍房

施主 山崎源兵衛

1848
当日護摩修業仕候

○ 弘化四年十月十五日、南竜山ニ護摩堂建ル

施主 山崎源兵衛

○ 由緒分限御改帳

一、南竜山不動明王

緑刻

1769

右本躰古瀬（巨勢）金岡筆之絵像、明和六丑年四月三日、右山林ノ滝へ出現、東西南北遠近之老若男女群集如市町、二十余年繁昌仕、当時参詣稀也、右之両像者年久敷大日宮殿ニ納リ有之候ヲ、不在罷有候処、右同年五月二十一日、妙現尼ト申者へ靈夢ニ御座候趣、縁起ニ相見へ申候、当山三十世昌運代、右山林滝者当山ヨリ十三丁入二有之候

概略について、「滝山歴史の散歩道案内人会」の資料から転記したものを図-1に記載します。

図-1

前記図-1の概略の中に、山形市内三日町・横町や柏山寺（山形市薬師町）、遠くは越後の菅谷不動尊すがたに（新潟県新発田市）が登場します。地元は平清水周辺のみならず、かなり広範囲から信者を集めた、信者が集まったということです。

2. 南竜山の場所と史蹟

「おゆき（妙現尼）」が活躍した南竜山の本拠地は、平泉寺から約2.5km、図-2（GPSで確定）①②のとおりです。



図-2

図-3は①の処です、不動明王が頑張っています。霊（冷）水が流れる滝筋は、岩の割れ目状浸食部の黒光りと相まって、とても霊妙さを感じます。同図写真右側は、頭部に不動明王の梵字「カンマ-ン」を冠した「線刻の不動明王」です。



図-3



図-4a



図-4b:①



図-4c:②

⑧点「お堂・護摩堂」(おゆきの住処) 跡地の現時状況は図-4aのとおりです。

図-4a 石碑3体の中で右のもの①を拡大すると図-4b——滑川の佐々木幸男さん撮影のとおりであり

ます。正面には「西国順禮供養塔」、向かって右面には「安永七 戊戌八月十五日」と刻字されています。おゆき(妙現尼)の本拠地たる護摩堂(跡地)に「西国順禮(禮)供養塔」を安置したのです。この石碑は、左面には「施主」という文字は明瞭であるが、他は風化しており文字があるのか無いのか、判明していません。裏面には何もなし。いずれにしても、西国順禮はこの地から徒歩では70・80日間を要する事からどうだったのか？ それとも誰かにやらせた代参だったのか？ 代参とは思いたくは無いが！あるいは先達・御師がその役割を担った講中だったのか？

ここは「おゆき」の住処に建てたことを踏まえれば、本人自ら順禮したとみるのが常識でしょう。これを否定するに確たる証拠が出るまでは、おゆき(妙現尼)自身の順禮の記念碑と理解したく思っていますが……。今とはなつては、真実を知るべくもありません。

ところで、図-4aの右上部をズームアップした図-5の写真よく見ると、「みょうが」が見えます。「みょうが」は自然界に自生するものではなく、人が持ち込んだものであり、明らかにこの地に住まい(護摩堂)があった何よりの今に残る証拠になります。

安永七(1778)年と言え、おゆき(妙現尼)を願主として^{【別記】}秋葉山に宝篋印塔を建立した年です、もちろん存命中のことです。



図-5

3. 「おゆき」の住処であった旧護摩堂の行き先

その1；対称の場所とは、山形市小立地内図-6中「ここ」卍マーク(滝山小学校に隣接する北側私有地)のお堂のことです、小立の「月山不動尊」^{つきやま}であります。

その2；その不動尊は、図-7は平清水佐藤久さんの「会員研修史跡探訪記」(南竜山不動尊)に書かれてあるとおり、「おゆき」の住処であった旧護摩堂が、大正七(1918)年に売却されて来たものであります。



図-6

会員研修史跡探訪記

(南竜山不動尊)



滝山郷土史研究会

十四四年三月吉日、世話人八森村九人が連名して
おり八森村で建立していた。妙現尼(おゆき)の出生
村だったのに納得する。

昭和四十四年恥かし川砂防ダム建設のため、参道入
り口が百餘ほど上流に付け替えられ今の参道入り口
になった。同時に鳥居・石仏などが集められ、この場
所に移された。

石仏の前は、自動車が数代駐車できる広場になつて
おり、石仏の後ろを流れる恥かし川の清流と緑が清々
しい。

石鳥居をくぐりダムを迂回する狭い参道を進むと
間もなく護摩堂跡地に着く。護摩堂は弘化四年(一八
四七)に建立されたものだったが、大正七年平清水部
落の総意で売却され、その利子を資金として毎年の
例祭と参道の清掃にあてたといわれ、町内会でも今も
毎年継承している。堂宇内の仏像、仏具等は、平泉
寺、耕龍寺に分けて祀った。護摩堂の本尊は、阿弥
陀如来坐像で今は耕龍寺(平清水)の位牌堂に祀られ

ている。この阿弥陀如来坐像は、台座から光背まで
の高さが百四十センチである。安永三年(一七七四)銅町
の鋳物師の銘があり銅町の代表作といわれている。
護摩堂は、小立の月山不動尊に売却されたといわれ
ている。

護摩堂跡地の傍に「正一位和泉稻荷大明神」が鎮
座している。「平泉寺由緒分限御改帳」によると、安
永二年(一七七三)堀田相模守が建立したもので、本
堂が三尺四角・鞘堂が二間×二間半とあるが、現在
は祠のみが残っている。

護摩堂跡地から不動尊奥の院まで三百メートル程
だが、参道は崩壊してしまったのか見当たらない。
しかたなく川の中を登ることにした。急な谷間の川
底は岩盤で滑り易く、さらに所々に倒木が横たわり、
戻りたくなるほど難儀だった。汗びっしょりになり
何とか奥の院に着いた。弾む息を整え、灯明を点し
参拝、瀧の水で眼を洗い瀧の水を飲む実にあまい。
瀧つば周辺の緑と清浄な空気が心を癒してくれる。

図-7

図-8左は参道入り口の鳥居です、建立年は不明ですが、懸額(扁額)には同図右のとおり「不動尊」と刻字されています。鳥居右手奥の建物は滝山小学校です。



不動尊

図-8

境内の中は図-9aのとおり平成30(2018)年5月までうっそうとした杜を形成していました。その後同年6月、同図9bのとおり、持ち主は杉林が倒壊や枝飛散の危険があるとの判断に立ち、樹木を切り払い石造の祠だけに整理しました。



図-9a



図-9b

その3；その以前、平成27(2015)年9月23日(水)持ち主の厚意を賜り内部を拝観していました。この旧お堂には、その名称に繋がる図-10のとおり不動明王を祀っております。図-11のとおり、「帰命院」が発行した二つ

の碑伝(お札)がありました。その中で右側のとおり、ここに「月山不動尊」を確認出来ました。

はたまた同図左には別記《歴史&宗教 No012》に取り上げた古峯ヶ原金剛尊(金剛山)のお札もありました。

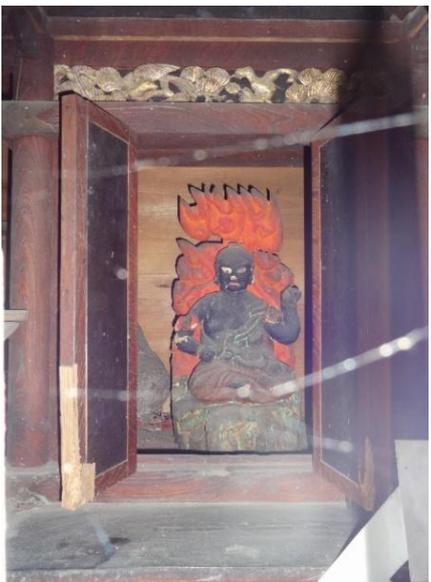


図-10



不動明王の梵字
(カーン)

真言宗
大黒山
帰命院

図-11

その4；令和3(2021)年8月16(月)、15時~15時30分、図-11に登場する帰命院(寺院)を訪問し住職と懇談して来たが、要点は次のとおりです。

- ・同院は図-12のとおり山形市十日町にある寺院である。
- ・図-11のとおり成田山新勝寺(千葉県成田市)分社と大黒山(真言宗醍醐派)の二つの顔を持つ。
- ・図-11左は成田山新勝寺分社の本尊は不動明王の神通力(神威仏光)を以って「古峯原金剛尊」(本尊)の火難消除靈験力の増長を吹き込んだお札である。
- ・図-11右も大黒山帰命院の本尊は不動明王の神通力(神威仏光)を以って「月山不動尊」の靈験力の増長を吹き込んだ(祈禱済の)お札である。



図-12

その5；なお、自慢げに言うが、この「^{つきやま}月山不動尊」を内部拝観（撮影）した人は、近年は殆どいないのではないかと考えています。ところで、隣接する上桜田には「^{がっさん}月山神社」がありますが、いずれも出羽三山信仰に繋がるものです。この地域に深い同信仰が広がっていたという証でしょう。

4. おゆきの死去

図-13――滑川の佐々木幸男さんより頂戴したものとおり、この石碑は前記図-2 中鳥居広場にある「南瀧山開基供養碑」であるが、おゆき（妙現、妙現尼）は、安永9¹⁷⁸⁰（^酉）年10月5日に死去しています。この日付は平成28(2016)年11月27日(日)平泉寺の難波住職からも確認済であります。



南瀧山開基供養碑
 當山開基釋妙現比丘尼者平清水村農夫善助之婦也性考而貞亦深歸于佛業。明和六年蒙不動明王靈應披創棘舉崔嵬諸此靈瀑爾來靈驗如響應云遂為尼號稱妙現安永九年十月五日寂茲有稀有之信者鈴木宇右衛門號曰義尊山形三日街之人也奮投義贊造榮堂舍完備佛器事無細大無不圖其眞意可謂功德偉。天明四年六月五日卒二氏逝而于茲一百有餘年也頃者諸有志者相謀修追福之法會且建一碑以傳不朽云
 明治二十七年十二月
 台嶺沙門釋覺田識 千氏要書

図-13

5. 「おゆき」ゆかりの不動明王尊像

さて、図-14 は、平泉寺難波住職から紹介された平泉寺内陣に安置されている不動明王の尊像であります。その裏には、同図右のとおり「妙現尼（おゆき）」の守り本尊と墨書されています。おゆきの夫善助か、あるいは、その子がおゆき（妙現尼）の守り本尊として日々礼賛・礼拝しつ供養していたということでしょう。その後文化元年は西暦1804年に平泉寺三十一代の『良賢』和尚が何かの縁あってこれを求めることが出来たということなのか。



南瀧山開基
 妙現尼守本尊
 文化元年^{甲子}三月廿八日
 卅一代良賢 求之

図-14

6. 歴史的相関

そこで、おゆきの足跡に係る歴史的相関を整理して見ると、図-15のとおりになります。



図-15

〔 参 考 〕

冒頭図-1 に出て来る「菅谷不動尊（菅谷寺）／越後国・新潟県新発田市」（図-16）を参考的に取り上げます。



図-16



<由緒譚>

今は真言宗醍醐派諸法山菅谷寺（通称は菅谷不動尊）。最澄（天台宗開祖伝教大師）が唐から請来した不動明王を比叡山無動寺に祀っていた、比叡山で修行中の護念上人が、平家の圧力から比叡山を下りる際、日頃より帰依していたその不動明王の「御頭」のみを笈に納め、諸国を巡錫した後、文治元年(1185年)に仏縁有ってここ菅谷に一字を建立したのが寺の開山である。

(end)